

令和2年度第1回三木市創生計画策定検証委員会の概要

日 時：令和2年8月25日（火）
午前10時～午前11時40分
会 場：三木市立教育センター
大研修室

第1期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第1期創生計画」という。）の推進交付金の検証、第2期三木市創生計画 人口ビジョン・総合戦略（以下、「第2期創生計画」という。）及びアフターコロナについて、第1回三木市創生計画策定検証委員会（以下、「創生委員会」という。）を開催し、委員から意見をいただいた。

創生委員会における主な内容は、次のとおり。

説明事項

- ・資料1 第1期地方創生関係交付金～事業・KPI検証事項～
- ・当日資料 第2期三木市創生計画 新規事業の進捗について

概要

三木創生を推進するため、2060年の人口5万人をめざし、第1期創生計画のKPI結果を検証し、第2期創生計画、アフターコロナに向けた取組について、自由な意見交換を行った。

主な意見

■ 青山7丁目について

- ・ライフステージに応じて住み替えることで、多世代が循環し、交流できると感じた。今後空き家が増えていく状況の中で、うまくマッチングする仕組みになればと思う。
- ・地域間交流や農福連携も同一エリア内でできる取組であり、非常に魅力的である。
- ・「所有から利用へ」という考え方について、都会の駅前など、土地のポテンシャルの高い場所では「利用」という取組が既にできている。しかし、郊外の戸建て住宅団地においては珍しく、青山7丁目は全国的にも注目すべき取組である。是非うまく事業を進めていただきたい。

- ・青山7丁目の近くに住んでいる。賃貸住宅ができるとイメージしている。若い世代が入ってくるような地域になることを期待している。
- ・高齢者が住み替えることは理にかなっている。経済的な負担が発生しないよう、「所有から利用へ」を進めてほしい。ニュータウンの多世代循環には、若い人が「ここに住みたい」と思うような具体的な仕掛けが更に必要である。創生計画において、2030年までに整備するとある児童発達支援センターの整備は、もっとスピード感を持っていただきたい。同時に、三木市で子どもを産める環境を整えてほしい。北播磨総合医療センターでは、現在産婦人科の常勤医師が1名しかいない。そういった状況を解消し、産後ケアハウスを整備するなど、「三木市では子どもを産み育てやすい」という、目に見える形のものを作っていただくと、ニュータウンの循環も進みやすくなる。
- ・今の段階ではイメージが湧かない。住んでいる人たちが、「具体的に三木市のここが良いと思っている」という情報を把握し、発信することが重要である。

■ 生涯活躍のまちについて

- ・K P Iの自己評価は厳しいが、移住世帯数は、かなり増えている。目標に達していないものの、郊外の住宅地でプラスの実績という結果は、多世代の住民がまちづくりに協力するという取組が実を結んでいる。
- ・資料1の27ページについて、転出入のK P Iがプラス10世帯と、かなり評価できる数字である。目標が高すぎるため、評価が「×」になっているが、かなり頑張った結果である。もっと前向きに評価するべきではないか。
- ・最近の緑が丘は、空き家を建て替えるなどして若い世代が入ってきている。現在、大和ハウスが空き家調査をしており、平成27年の結果と今回の調査の結果で、空き家の数がどう変化するかが楽しみである。
- ・生涯活躍のまちは、多世代の住民が協働でまちづくりを行うことで、まちが活性化し、楽しいまちになるという取組である。サテライト、クラウドワーキング、健康管理など、住んでいる人が「ここに住んで良かった」と思っているということを情報収集して、発信してほしい。また、こういったまちづくりをしているということを、市民に知っていただくことが重要であると思う。

■ ゴルフツーリズム推進支援計画について

- ・「ゴルフ離れ」と言われている一方で、昔よりプレー料金の相場が安くなり、利用しやすくなっている。一方で、ゴルフに対して以前のように高級であるというイメージを持っている方も多い。ある会社では、スポーツを振興しており、健康づくりの一環として、社員がゴルフを含めたスポーツを楽しみな

がら体力づくりができるよう推進していると聞いている。ゴルフ場に人を呼び込むことで、地域にお金がまわる。魅力的な取組であるという感想を持った。

- ・三木市へゴルフをプレーしに来ても、そのまま帰ってしまう。地場産業、地元の資源といかに連動させるかがポイントになる。ゴルフ場の中と外をうまく連携できるような取組を進めていただきたい。全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会は、是非継続的に取り組んでいただきたい。
- ・ゴルフをしている子どもが増えてきていると感じる。ゴルフ練習場等においても、小学生が練習する姿をよく見かけるようになった。プロ野球選手をめざす子ども達が甲子園をめざすように、プロゴルファーをめざす子どもたちが三木市の大会をめざすような、「ゴルフの聖地」という位置づけになってほしい。
- ・最近ゴルフを始めた。初心者は、ゴルフ場で絶えず後ろの方に追いつかれないかと気を遣ってしまう。三木市に住んで、家族で気軽にゴルフに行ける環境がもっと整えば、底堅い利用者となると思うので、今後、そうした環境を整備してもらえればと思う。
- ・市内学生のゴルフ場（練習場）利用料を減額したり、大会で上位となった方に、複数年にわたりゴルフクラブ等の提供をするなど、ゴルフのまちを推進する上で、子ども達がゴルフに親しむための仕組みづくりが重要である。ゴルフのまちにおいて、子ども達がゴルフに入っていくやすい環境整備が必要だ。
- ・全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会の誘致に加えて、何か目に見える施設を作れば、もっと三木市を「ゴルフのまち」として認知してもらえるのではないかな。色々なやり方を検討すれば、もっと三木市が良くなる。
- ・「ゴルフのまち」と「ゴルフ場のまち」とは違う。「ゴルフ場のまち」であれば、ゴルフ場の経営を具体的に活性化させるための産業振興の在り方を考えないといけない。一方、「ゴルフのまち」は、ゴルフを切り口にして、まちのブランド化を図る取組である。「ゴルフのまち」として進めるには、全国高等学校・中学校ゴルフ選手権春季大会の恒久開催も取組の1つとして位置づけ、「三木といえばゴルフ」というように、質の高いゴルフ場を活用して、どのように「ゴルフのまち」としてのブランド化を進めていくのかを担当課が具体的に考えていかなければならない。小学校の大会を恒久開催することも検討してはどうか。「三木市」と言えば「ゴルフ」というブランドが定着し、市民の中でゴルフが身近にあり、市民が「ゴルフのまち」に積極的に参画するような取組を考えてほしい。
- ・ゴルフのまちは、金物や山田錦と全部連携させるということで、イメージし

にくい。ゴルフは、魅力のあるツールであると思う。「ブランド化をめざす」という意見と、「家族でも楽しめる、多くの人がゴルフに親しむ」という意見があり、三木市としては両方をめざしてほしい。そして、それを三木市への移住者増加につなげてほしい。

■ 新型コロナウイルスによる変化について

- ・新型コロナウイルスの感染が拡大する前は、三木市から大阪まで通勤していた。しかし、今年の3月から現在にかけて、在宅勤務で業務を行っている。夫婦ともに在宅勤務で、子どもは塾のWeb授業、同居している父もたまにオンラインを利用しているという状態であり、家族が全員別室でオンラインを利用している時もある。都会のマンションに住んでいる同僚からは、家が狭くてオンライン会議をするのも大変であると聞いている。一方、私は、三木市の安くて広い家で、家族全員がオンライン会議をしても快適に業務を遂行している。また、現在、会社では、社員が好きな場所で好きなことをしながら働くことを推進している。新幹線を含む公共交通機関を使用して2時間以内に大阪の事務所へ通勤できる場所であれば、引っ越し代などの移住費を会社が支給している。東京であれば軽井沢、大阪では丹波篠山や赤穂の周辺までが対象地域である。コロナは、今後も続くので、三木市もコロナによる変化に対応した取組が必要ではないか。そのためには、将来を見据えたIT投資が重要である。例えば、カラオケボックスのような、オンライン会議ができる場所を公民館に作る等の施策を考えていかなければならない。三木市で育った子ども達が、三木市に住み続けながら東京や大阪、神戸といった都会で活躍できる時代が来る。そのための環境づくりをしていただきたい。
- ・社会的弱者、つまり低収入の子育て世代、孤立した高齢者、孤立した外国人の方々が、コロナ禍の中で増えてきていると実感している。第2期創生計画では、これらの社会的弱者への対応が全て盛り込まれており、それらの取組を是非進めてほしい。特に、子育て世代で低収入の方が増えてきている。我々は、困窮者に対し食料品の提供を行っており、支援を求める方が多いと感じていると実感している。医療費や給食費といった、困窮者への直接的な救済となる施策にぜひ、力を入れてほしい。孤立した高齢者への取組は、「生涯活躍のまち」がそれに当たると思う。困っている人と助ける人とのマッチングは、非常に重要である。助けようとする人はいるが、困っている人は家に閉じこもっていて顕在化しない。こういった問題を公民連携で取り組んでほしい。また、外国人への支援を通じて、三木市への魅力向上につなげてほしい。
- ・創生計画は、長期計画であるため、今回のコロナ禍のように不測の事態が発生する可能性がある。不測の事態が起こっても、柔軟に対応しなければなら

ない。コロナ禍は、悲観的な話ばかりではなく、チャンスに変えていくことも重要である。20年以上前であるが、IT化が進むことによって時間的空間的制約が無くなり、どこでも仕事ができるという話であった。ところが、IT化で田舎の家等を管理しながら都会に移り住むことができるので、都市部への一極集中が進むという結果になった。今回のコロナ禍では、これまでとは逆に、仕事において今まで使われていなかったIT（テレワーク）を、半強制的に利用しなければならない環境になった。例えば定住の推進や事業展開といった創生のチャンスに変えるため、行政だけではなく事業者もどう戦略を描いていくかが重要である。

- ・経済財政運営諮問会議の方針「経済財政運営と改革の基本方針2020」が発表された。この方針は、ポストコロナ時代をどう創っていくか、国民の生活をどう守るかの方針である。来年度の国の予算に方針が反映されていくので、情報を活用して、地域に合うものを利用して行かなければならない。
- ・コロナに関しては、苦労もあるが、変化も見えてきた。今までできなかったことが逆にできるようになってきている。ワーケーション、サテライトオフィスなど、以前は考えられなかった取組も、やればできるという風潮に変化してきた。オフィスに行かないと仕事ができないという状況は、かなり変わってきている。地方にとって、大きな変化が起きる時代は、チャンスが生じる分岐点となるかもしれない。地方創生は、すぐに成果を出すことが難しい。インバウンドは、地方創生に対して最も即効性があると思われていたが、コロナの影響で訪日外国人が激減した。このように、予想外の事件が起こると、今までの取組がゼロになってしまう。このことから、地方創生は、一点突破では難しいということである。逆に、地道な取組が重要であるという側面が改めて見直された部分もある。

■ その他

- ・「児童発達支援センター」と「重症心身障害児放課後等デイサービス」は、是非推進してほしい。国においても、特別支援教育に力を入れており、創生計画に入っていることは、非常に評価できる。
- ・小中一貫校の推進については、施設一体型と書いているが、住民の方の理解が非常に重要である。住民の方からヒアリングを行うなどして、学校づくりを進めてほしい。
- ・英語教育は、着実に成果が上がっている。授業時間数は、やれば増えるが、これからは子ども達に力がついているかどうかを見る段階である。小学校でどれくらい英語力がついているかではなく、小学校で基礎を作り、義務教育の最終段階でどういった力がついているかという視点が重要である。KPI

にも、「中学校3年時の英検3級以上の取得率」があるが、教育はすぐ成果が出るというものではないため、長いスパンで見ることが必要である。英語が好き、英語をもっと学びたいといった別の観点での検証も必要である。

- 学力テストについては、小学校の結果をあまりシビアに見る必要はない。中学校で大幅に学力を伸ばす子もいるので、義務教育終了時点での力が重要である。
- 第2期創生計画では、第1期に比べて絞り込んだ計画になっていると感じた。
- KPIの資料や第2期創生計画を見て、ボリュームのある内容を簡潔にまとめているという印象を持った。一方で、内容にボリュームがあるので現状把握が難しいという印象を持った。地方創生は、市民や事業者の参画が重要である。成果が出ている事業については、成果の見える化が必要である。成果が出ていない事業については、市民や事業者に参画してもらい、協力を得るため、現状をしっかりと把握してもらうことが非常に重要である。中身や成果の見える化をもう少し進めてほしい。創生計画について、事業の羅列となっており、今どの事業が動いているのかが分かりにくい。指標の中で重点となる事業、重点指標のみを示すことで、分かりやすくなり、参画しやすくなる。限られた資源や予算の中で創生計画に取り組むには、時間軸を示した上で、現状が見えると、参画が進むのではないか。